

# スポーツ振興基金表彰式

3月13日、大会等で優秀な成績を収めた方や、スポーツの振興に貢献された方を表彰する「スポーツ振興基金表彰式」が中央公民館で開催されました。

平成27年度は47名に殊勲賞、1名に功労賞が贈られ、受賞者を代表して齋藤由佳さんが「このような賞をいただき光栄に思います。これを励みにますます精進します」と挨拶し、意気込みを新たにしていました。



※写真には代理で出席した方も含まれます。

### 【殊勲賞】

- ▼剣道
  - 鎌田 聡史 奥山 璃胡
  - 近松 果歩 若林 茜
  - 白田 優羽 堀 智也
  - 奥山 周生
- ▼バウンドテニス
  - 高橋すみ子 小関 泰子
  - 須貝和香子
- ▼ソフトテニス
  - 渡邊 朋樹 笹原圭一郎
  - 渡邊 光樹 本間 海斗
- ▼テニス
  - 佐藤 夏央 佐藤和歌葉
  - 三浦 穂泉 東海林美玖
  - 長岡 麻織

### ▼サッカー

美濃谷飛竜 石川 脩也

### ▼バスケットボール

萩原 実久 高橋翠優華

### ▼ミニバスケットボール

石川 萌花 海野 菜桜

松枝 遥香 須貝 夏歩

志田 愛 志田 望

奥山 志穂 高橋彩唯香

佐竹 郁実 鈴木 華奈

林 玲嘉 佐藤 綾

福武 星空 玄地 莉奈

横山 聖恋 高橋遥白花

石川いおり

### ▼空手

片倉 菜結 片倉 凜花

ライフル

柏倉 里菜 工藤 一輝

### ▼カヌー

齋藤 由佳

### ▼スキー

叶 靖長

### ▼陸上

高橋 一心

### 【功労賞】

### ▼バウンド・ゴルフ

長谷川 昭

おめでとうございます。

# 楽天イーグルスを応援しよう

3月13日、中央公民館で東北楽天ゴールデンイーグルス中山町支援本部の総会が行われ、平成27年度の活動内容が報告されたほか、平成28年度の活動計画案について協議され、可決されました。

平成28年度、荘内銀行・日新製菓スタジアム（県野球場）では、1軍公式戦とファーム公式戦、合わせて6試合が予定されています。

今後ますます東北楽天イーグルスを盛り上げるため、町民の皆さまのご声援・ご協力をお願いします。



### 平成28年度事業計画（主なもの）

- ・ポスター等での町内外への広報活動
- ・荘銀・日新スタジアム観客席イス清掃
- ・両チームへ激励品贈呈
- ・各ファーム戦でふれあいイベント事業実施
- ・チームによる野球・ソフトボール教室等の開催

## 第109話 まじない

# 中山町歴史散策

「病気がおこるのは神仏が不浄を忌むことからで、不浄をなした人にサワリ（災い）をもたらす」といった発想は、タタリ（祟り）という悪霊のとり憑きや、罰があたるといふ「因果応報」の思想・思い込みを生みました。

このタタリ、サワリの原因を究めるための「易（占い）」を行うのは巫女や道心で、サワリ・タタリを除き鎮める修験者、更には黄泉の世界と現世をとりもつ「オナカマ」などの人々を派生させました。

中でも一子相伝のように特定の子や孫に代々伝えられた「まじない」は、タタリ、サワリのうち病気の予防や治療の方法として長いこと大衆に信奉されてきたものです。

江戸中期から長崎界隈に伝えられてきた「まじない」について、石沢太惣治家ほかの資料から一例を拾ってみます。

◆のどに魚の骨刺したるとき、たちどころに抜くおまじない  
茶碗に水をいれ、指にて「鳥

飛竜下魚作丹丘」と小さく三遍書き、また口のうちに同じく八文字を唱えるべし、たちどころに抜くべし

◆虫歯痛みのまじない  
一寸四方の紙に「三我口日九十一」と順に書き、中の口に釘打ち柱に打ちつくれば、たちどころに痛み去るといへり

### 【用語の説明】

祟り…神仏や霊魂などの超自然的存在が人間に災いを与えること。

因果応報…人は良い行いをすれば良い報いがあり、悪い行いをすれば悪い報いがあるということ。

道心…13歳または15歳で仏門に入った人のこと。

黄泉…死者の行くことされる所。オナカマ…中山町の岩谷観音を本山として栄えた盲目の巫女たちによる口寄せ・加持祈祷などの業を行う者。

※参考 中山町史 中巻  
第9章第4節 疫病の流行

# Time Slip vol.29

今から30年前…  
1986年(昭和61年)

## 『窓口にコンピュータを導入』

昭和61年、住民サービスの向上と窓口業務の効率的な運営のため、これまで手作業で行っていた住民異動届や出生届の処理、住民票発行などの事務をコンピュータで処理する「窓口即時処理システム」が導入されました。

この頃、コンピュータ等のOA機器が急速に発達しはじめ、情報化社会に突入していました。町でもこの動きに対応するため、昭和59年4月から「中山町コンピュータ等検討委員会」を設置。職員の研修や先進地視察などを実施して検討を重ね、行政改革（昭和61年策定）の一環として窓口即時処理システムが導入されることとなりました。

昭和61年2月1日には窓口即時処理システムの稼働式が行われ、当時の石川町長をはじめ、関係者によるテープカットが行われ、システム稼働を盛大に祝いました。

また、システム導入後初めての入力者となった方には、中山町における電算処理の第一号として石川町長から記念品が贈られました。

